北上川水系流域治水プロジェクト2.0【位置図（上流）】

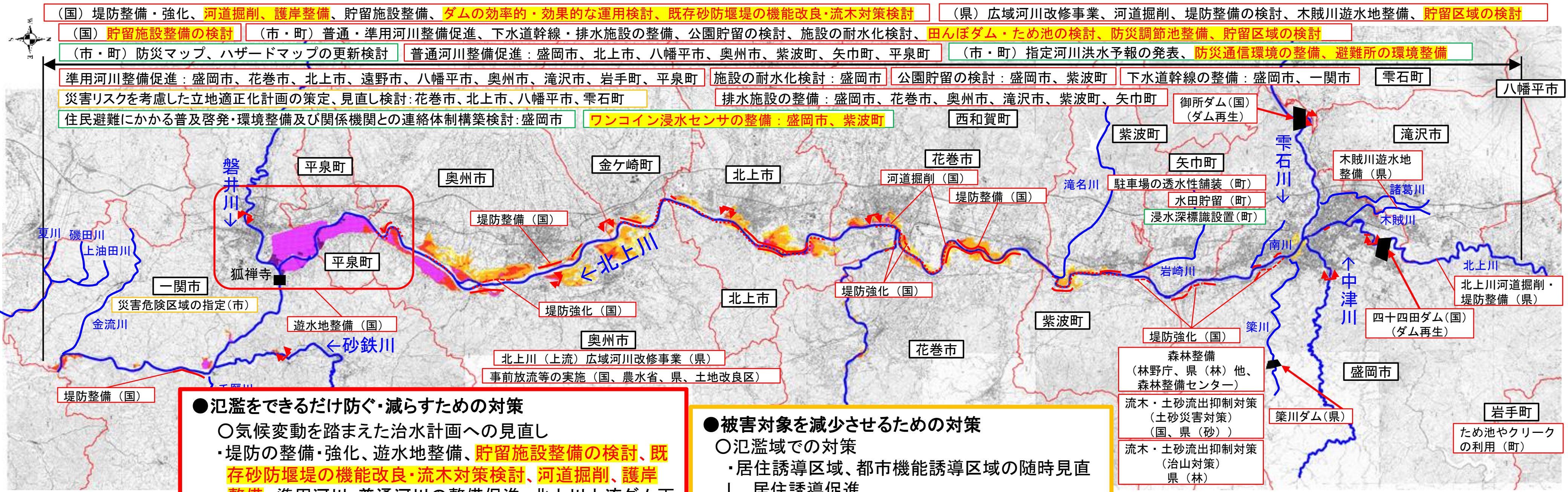
～東北一広大な流域と上下流の特徴的な地形特性を踏まえた河川整備と森林や農地等を活用した治水対策の推進～

○ 令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、北上川水系においては、広大な森林面積や地域の主産業（農業等）などの地域特性を考慮し、河川整備に併せて、森林整備、治山対策や農地等の活用などの流域治水の取り組みを実施していくものとし、更に国管理区間においては、気候変動（２℃上昇時）下でも目標とする治水安全度を維持するため、降雨増加量（雨量1.1倍）を考慮した戦後最大洪水である昭和22年9月洪水を安全に流下させることを目指す。

○ 北上川流域では、気候変動の影響に伴う降雨量や洪水発生頻度の変化という新たな課題や、流域の土地利用の変遷に伴う保水・遊水地域の減少等を踏まえ、将来に渡って安全な流域を実現するため、特定都市河川浸水被害対策法（以下「法」）の検討を行い、更なる治水対策を推進する。

○ 想定される浸水区域の中に地域産業の安全・安心を下支えする様々な工場もあり、流域の生業と暮らしを併せて水害から守るため、今後も河道掘削を継続実施していくとともに、新たな貯留区域の検討や護岸整備などの対策を行い、あらゆる関係者が協働して流域治水に取り組む。

○ ハード整備については、親水護岸など水辺と触れ合える環境整備、地域の歴史と文化を反映した賑わい水辺空間の創出の検討も併せて取り組む。



●氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

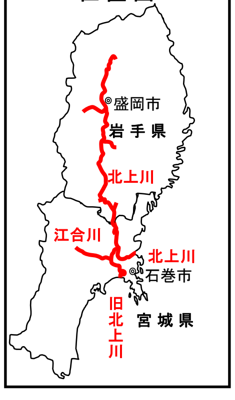
- ○気候変動を踏まえた治水計画への見直し
  - ・堤防の整備・強化、遊水地整備、貯留施設整備の検討、既存砂防堰堤の機能改良・流木対策検討、河道掘削、護岸整備、準用河川・普通河川の整備促進、北上川上流ダム再生事業、事前放流の実施、ダムの堆砂対策、流木・土砂流出抑制対策、ダムの効率的・効果的な運用検討、河川管理の高度化・効率化（3次元点群データの活用等）
  - ・排水路整備、排水能力の増強、雨水排水ポンプ増設、下水道幹線の整備
- ○流域対策の目標を定め、役割分担に基づく流域対策の推進
  - ・駐車場の透水性舗装、公園貯留
  - ・水源林造成事業による森林の整備・保全
  - ・田んぼダム・ため池の検討
  - ・防災調節池整備の検討
- ○溢れることも考慮した減災対策の推進
  - ・排水機場の適正な維持管理、施設の耐水化
- ○既存ストックの徹底活用
  - ・貯留区域の検討

●被害対象を減少させるための対策

- ○氾濫域での対策
  - ・居住誘導区域、都市機能誘導区域の随時見直し、居住誘導促進
  - ・災害危険区域の指定

●被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ○気候変動を踏まえた治水計画への見直し
  - ・ハザードマップ作成・周知・更新
  - ・ワンコイン浸水センサの整備
  - ・浸水深標識の設置
- ○多面的機能を活用した治水対策の推進
  - ・災害時の計画作成
  - ・適時的確な防災気象情報の発表
  - ・気象予測の高度化
  - ・避難所の環境整備
  - ・指定河川洪水予報の発表、防災通信環境の整備



凡 例

- 堤防整備
- 堤防強化
- 河道掘削
- 大臣管理区間

凡 例

想定される水深

- 0.5m未満の区域
- 0.5～1.0m未満の区域
- 1.0～3.0m未満の区域
- 3.0～5.0m未満の区域
- 5.0～10.0m未満の区域
- 10.0m以上の区域

※流域治水プロジェクト2.0で新たに追加した対策については、今後河川整備計画変更の過程でより具体的な対策内容を検討する。

北上川水系流域治水プロジェクト2.0【位置図（下流）】

～東北一広大な流域と上下流の特徴的な地形特性を踏まえた河川整備と森林や農地等を活用した治水対策の推進～

○令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、北上川水系においては、広大な森林面積や地域の主産業（農業等）などの地域特性を考慮し、河川整備に加え、森林整備、治山対策や農地等の活用などの流域治水の取り組みを一層推進していくものとし、更に国管理区間においては、気候変動（２℃上昇時）下でも目標とする治水安全度を維持するため、降雨増加量（雨量1.1倍）を考慮した戦後最大洪水である昭和22年9月洪水を安全に流下させることを目指す。

○北上川流域では、気候変動の影響に伴う降雨量の増加や流域の土地利用の変遷に伴う保水・遊水地域の減少等による水害リスクの増大を踏まえ、流域のあらゆる関係者が他人事ではなく自分事として捉えるとともに、河川への流出抑制や貯留機能の保全及び拡大と併せて、特定都市河川浸水被害対策法の検討も行い、流域一体で総合的かつ多層的な浸水被害対策の実施による安心・安全で持続可能なまちづくりを推進する。

○また、河口部における震災からの復興とともに歩む地域産業の支援と、豊かな自然環境を保全活用することによる更なる賑わいの創出等、地域の発展に資する流域治水に取り組む。

●氾濫をできるだけ防ぐ･減らすための対策

○洪水氾濫対策（内水対策含む）
- ･河道掘削、堤防整備、分派施設改築、遊水地整備、既存砂防堰堤の機能改良･流木対策、海岸における事業間連携を通じた砂の有効活用検討、堤防耐力の向上インフラDX（施策）における河川管理の高度化･効率化（3次元点群データの活用等）、既存ダムにおける事前放流等の実施、体制構築　等
- ･下水道事業（雨水ポンプ場、幹線整備　等）

○流域の雨水貯留機能の向上
- ･水田貯留（田んぼダムの取り組み拡大）、森林整備、治山対策･土砂災害対策、ため池等の活用　等
- ･流出抑制対策検討

※今後、関係機関と連携し対策検討

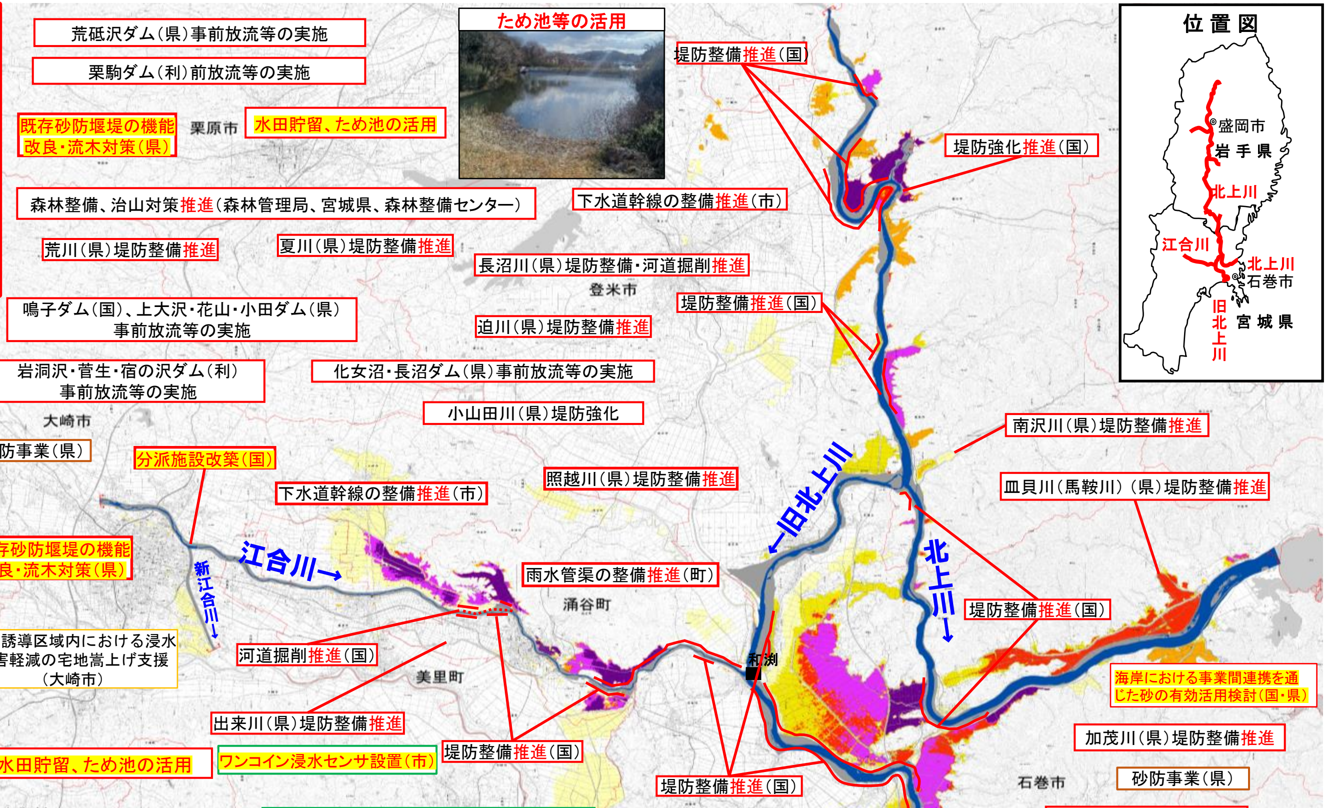
●被害対象を減少させるための対策

○氾濫域での対策
- ･土地利用･住まいの方の工夫（浸水被害軽減の宅地嵩上げ支援 等）
- ･まちづくりでの活用を視野にした水災害リスク情報の充実
（立地適正化計画に定める防災指針による居住誘導区域内の災害リスク低減、防災力向上等）

※今後、関係機関と連携し対策検討

● 被害の軽減、早期復旧･復興のための対策
- ･土地の水災害リスク情報の充実
（災害リスクの現地表示等、水害伝承の取組推進、ダム堰の効果･操作に関わる情報の周知、水害リスク空白域の解消、簡易型監視カメラ･危機管理型水位計の設置 等）
- ･避難体制等の強化
（マイ･タイムライン普及促進、「水害リスクライン･洪水キキクル」普及･利用促進、「命を守る行動」に繋げる情報発信（ワンコイン浸水センサ設置、総合防災情報システムの運用）、eラーニング教材「大雨の時にどう逃げる」を活用した防災教育の推進、要配慮者施設避難計画促進等）
- ･関係者と連携した早期復旧･復旧の体制強化
（市町村庁舎等防災拠点の機能確保、水防資機材の拡充　等）

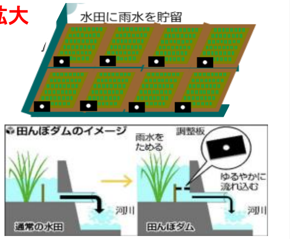
※今後関係機関と連携し対策検討



凡 例
浸水した場合に想定される水深（ランク別）
- 高頻度（1/10）
- 中高頻度（1/30）
- 中頻度（1/50）
- 中低頻度（1/100）
- 低頻度（1/100,1/150）
- 想定最大規模

「宮城県田んぼダムコンソーシアム」取組拡大

宮城県田んぼダム実証コンソーシアム設立
（R3.6.14設立）



ワンコインセンサの設置により街中浸水状況をリアルタイムに把握

ワンコインセンサ（イメージ）

※流域治水プロジェクト2.0で新たに追加した対策については、今後河川整備計画変更の過程でより具体的な対策内容を検討する。